

裏面の話題

みんなの居場所の裏面も、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年6月16日(月)

みんなの居場所

雑感

昨日は父の日だった。忘れていた私は休日のルーティンで1時間ほどのウォーキングに出た。帰ってくる今年就職した息子から父の日のプレゼントを買った。トレーニングシューズだった。私が休日歩きに行くことを知っていて私のくたびれた靴を見ていたのだ。素直に嬉しいものだ。

学力を伸ばすために 実践したい生活習慣

若くして子ども達が学校に楽しく通ってほしい。とだけ考えていました。しかし10歳を越えた頃から少しずつ、生活習慣が学力向上に関係しているのにつれて「楽しく」だけではなく「生活習慣のコントロール」を意識するのようになりました。生活習慣の管理は自己管理のスキルは学力が高いといふデータがあるからです。そんな子ども達の生活習慣を紹介いたします。以下の5点です。

- ①テレビやゲームは時間を決め、必ずそれを守る。逆の表現をするなら「高学年の2時間以上テレビ時間を取ると学習の時間が減り、学力は下がる」といふことです。
- ②朝生活を送る。「10時まで」寝る子は学力が高い傾向にある「朝生活を送る」。早起きの子は脳や身体にも良いのです。
- ③「毎日、朝食を食べる」子は学力が高い傾向にあるといふことです。食事を摂ることで内臓の動きが活発化し、脳の血流を促します。
- ④「毎日、勉強する」子は学力が高い傾向にあるといふことです。この点については誤解されやすいので補足しますが、短時間でもいかに学習を継続することが大切なのです。「継続は力なり」なのです。
- ⑤「本を読む」子は学力が高くなる傾向にあるといふことです。ちなみに読書の少ない子の家庭は、保護者の読書量も少ないというデータもあります。10分でもいいので、本を静かに家族全員で読むような時間を設定できたらいいですね。読書量と国語の学力は密接に関係しています。また、読書は国語力の源であると同時に、あらゆる学力の土台を作るといえるでしょう。

最後に一つ、これはすべて団らんの話題にできるものについて紹介します。それは「勉強が大切だと思える子」は、学力が高い傾向にあるといふことです。勉強が大切だと思えない子は、自分を正当化するために「こんな勉強は社会に出てからは必要ない」「無理だよ」といいます。(保護者の価値観が影響するものが多いようです。)後ろ向き姿勢の連鎖反応です。学習は大切だと思える子は、嫌なこともそれを解決するために努力することがあります。実際のところ、高等学校で学ぶ数学の微積分などは、私の社会人生活の中では使うことはありませんでした。しかし、高校時代にそれを学んでいたことで、自分の目標や夢を実現するに役立ったのですから、自分のために必要な学習だと言えるのです。生活習慣の大切さを理解し、私自身がその大切さを痛感してしまっています。

シリーズ「自分を語る」#19

中学校に入學してから驚くは生活リズムに馴染むことができました。少々面喰らって生活していた私ですが、慣れてくると少年から青年への脱皮を目指し、少しばかり行動範囲、交友範囲を広げていきました。

小学校時代から興味のあった野球はともかくとして、中学校の冬休み頃から興味を持ち始めたのは音楽です。その頃は確か山口百恵さんが引退し、ビートルズが人気絶頂の頃でしょうが、更には私達が中学校時代に松田聖子さんや中森明菜さん、小泉今日子さんが相次いでデビューして来る頃です。しかしながら当時の私はいわゆるアイドルといわれる方々には多少は興味があつたものの、先ず興味がでてきたのは映画音楽でした。5年生が6年生だった頃、あの有名な「スター・ウォーズ」を観たんです。その物語に感動し、ついに音楽にも興味が出たといふことです。映画音楽については映画を観る暇もお金もないので、それだけで立ち消えるのですが、私の通った熊本市立府本中学校は不校時のBGMが「ビートルズのレット・イット・ビー」だったんですね。これがいつまでも鼻歌として出てくるようになって「誰の歌がさうさう」とか考えているわけが、周りの仲間がいわゆる「ラ」の子とも達には知らないというわけ(を貸し借りするやつ)なの、俺にも録音して「なんて頼むのにならなりました。当時、インボネント・ステイションは一部の仲間の家にしかない、その仲間の家に借りたテープを持ち込んで、カセットテープに録音してもらったのです。そしてそれを家にあった壊れたカセットレコーダーで聞かれました。テープを巻き込んだりしないように弛めを取り、慎重に再生ボタンを押していたのを覚えています。英語の歌詞を覚えるのも頑張りました。録音のレベルが低すぎたのもさうだし、聞くに値しないので、また友達に頼んで録音しなおしたので…。当時はエフエフエフなんて言葉も流行りました。ビートルズは今でも聞いています。学年が進むにつれ、長瀬剛、松山千春にも興味を持ち始め、中学2年生の頃は長瀬剛ばかり聞いていたようです。

この頃から新たに興味を持ち始めたのがラジオの深夜放送でした。当時は空前的な漫才ブームで、ビートルズ(北野武)の番組が一番面白かったような気がします。中島みゆきもやっていました。今もこの番組があるみたいですね。夜更かしして聞くものだから、次の日は辛かったですね。話題には事欠きませんでしたか…。

このように、中学時代というのは多くのものに興味を持ち、少し背伸びして大人に反抗していく、越えていく時期ですね。今の小学生は少し情報が多すぎて逆に、何に興味を持っていけるのか分からない、興味を持っても長続きしないという状況が続いているのです。私達からすると、少し可愛そうな時代なのかも知れません。でも、後ろ向きな考え方は、子ども達を導くことはできません。私達大人は、子ども達に色々なことに興味を持たせることは、責任が重すぎません。あれもタマこれタマではなく、情報の取扱選択をさせながら、間違いない指導しながら、多くの経験をおさめることが大切です。といふことは我々も子ども達のトレン